



KAGOSHIMA

Y'S MEN'S CLUB

No.372 2021

鹿児島ワイズメンズクラブ

12月号

国際会長 : Kim Sang-chaе [韓国] 世界とともにワイズメン Y's Men with the World
アジア会長 : 大野 勉 [神戸ポート] 100年を越えて変革しよう Make a difference beyond the 100th
西日本区理事 : 新山 兼司 [京都トップス] Challenges for the future 未来への挑戦
九州部部长 : 森 律子 [八代] 小さなことにも大きな愛を込めて。そして未来へ
With great love for the little things And towards the future...



SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

11月例会報告

11月23日(火)は勤労感謝の日の祝日でしたが、国際交流センターで定例会を対面方式で開催致しました。今回は岩下淳子先生を講師にお迎えして第2回「風呂敷包み方教室」と銘打っての開催です。八代クラブから守田会長と守田ワイズのご友人の加世田さま、リモートで宝塚クラブから5名ご参加くださいました。今期の会長主題「SDGsを鹿児島で」にふさわしく、日本の伝統文化を楽しみながら暮らしに役立つ風呂敷の活用方法を学ぼうということで前回好評を得ました、岩下先生に再度講師をお願いしました。皆さん楽しみながら、まずは基本的な結び方から始まり、レジ袋の代わりになる方法、様々な大きさや形の異なるものを包む方法、ボトルや一升瓶などを包む方法などを学びました。皆さん方が楽しみつつ、為になったとおっしゃっていただき大変有意義な講習会になったと思います。私もいつも大風呂敷ばかり拵げていないで出来ることからコツコツせねばと思いました。

鹿児島クラブ 中堀 清哲



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



会長通信

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.



2021年も終わろうとしております。夏に開催された東京オリンピックも遠い過去の出来事の様です。コロナ禍が始まったのは2019年の末でしたから丸2年が経ちますね。感染は拡大と縮小を繰り返しながら世界中に蔓延を続けております。日本では第五波のピークが収まっておりますが、再び南アフリカで『オミクロン株』という変異ウィルス株が現れ、不気味な存在です。新型コロナウイルスが弱毒化して他のインフルエンザのようになる日を待つしかないのでしょうか。過去にも人類はパンデミックを経験し、今に至っております。科学技術が幼稚だった昔は人類は為すすべもなく悪夢が過ぎ去るのをただ、待つしかなかったのでしょうか、科学技術が発達した現代においても、小さな小さなウィルスに翻弄されているのが我々です。人類はこの情報化社会の中で科学技術をうまく使いこなしているとは思えません。便利さと、利益の追求に走り過ぎ、あっという間に地球環境を危機的状況に追いやりました。これではいけない、ということでSDGsの運動は世界中で展開されているのです。私の会長としての主題は「鹿児島でSDGsを」と掲げました。その一環として去る11月14日(日)に鹿児島YMCAとの合同で清掃活動を実施しました。谷山港のヘリポート付近に約90名の皆さんが集まり、1時間ほどゴミを拾いました。更に、11月23日(火)の鹿児島クラブ例会では岩下淳子先生を講師に迎え、『風呂敷の結び方、包み方教室』を開催しました。八代クラブの守田涼子会長と守田ワイズのご友人の加世田育子さんが会場まで来てくださいました。リモートでは宝塚クラブの皆さん5名と森律子九州部部長(八代クラブ)がご参加くださいました。これらの活動につきましては別項にて報告いたします。

2021年は皆さまにおかれましてはどのような1年でしたでしょうか。コロナ禍にあってワイズメンズクラブの活動も制約が多くて儻なりません。前半は私は西日本区の国際・交流主任を仰せつかりましたが、不完全燃焼でした。7月からは鹿児島クラブの会長として張り切っておりましたが、8月～9月はオンライン例会のみでした。しかし、10月に皆さんと直接お会いできた時の喜びはひとしおでした。困難な時こそ解る事もあるのだ、ということを実感する日々です。来る2022年はコロナウィルスと共に生き、復興の始まりになって欲しいと願いつつ、新年をおごそかに迎えたいと思います。

皆様にとりましても2022年が良き1年になりますように心から願っております。



理事通信

西日本区理事 新山 兼司

Challenges for the future

未来への挑戦



11月も終わりに近づきますと日々寒さが増してきました。新型コロナウイルス感染症も収まってきていますが、予断を許さない状況です。皆様と同様に私も健康管理には十分気を付けています。10月にはインフルエンザワクチン接種、11月には肺炎球菌ワクチン接種を受けました。かかりつけ医の先生は大丈夫と言いますが、自分の身体の中はワクチンだらけで少し心配しています。

さて11月西日本区内では様々な活動が行われています。全てのご報告はできませんが一部ご報告いたします。

11月1日新型コロナウイルス感染を鑑み、西日本区大会実行委員会Zoom開催が行われました。毎月一回、必ず開催されていますがコロナ対策が悩ましいところです。

方向性が定まり、岡山での西日本区大会をどの様に盛り上げて行くかは、次回の会議で話合われます。

11月6日西日本区事務所にて11月開催の次期西日本区役員研修会及び来年3月開催の次期会長・主査研修会の準備会議が開催されました。来年はワイズメンズクラブ国際協会創立100周年を迎える年になる為、大変重要な研修会と位置付けています。

11月7日京都部ワイズデー「舞鶴べっぴんな海に大作戦」神崎海水浴場海岸清掃活動を「スポGOMI」大会にて行われました。スポGOMIとは、企業や団体に取り組む従来型のごみ拾いに「スポーツ」のエッセンスを加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の全く新しいスポーツです。

この「スポーツ」と「社会奉仕活動」の融合により同じ目標へと立ち向かう・チームで力を合わせる・達成感・爽快感など、スポーツの持つ特有の素晴らしいキーワードが競技者自身のごみ拾いへの価値観を一新させます。スポーツには既存の価値観をプラスに転じる力があるのです。スポGOMIは、予め定められたエリアで制限時間内にチームワークで、ごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合うスポーツです。

京都部より230名のワイズメン・メネット・コメントの参加があり、中村京都部部長のワイズデーにかける思いが良く出ていました。私も参加して「スポGOMI」の初めての経験とSDGsに関する素晴らしい事業をされました。

京都部の皆様に感謝申し上げます。

11月20日瀬戸山陰部第20回部会が鳥根県松江市大根島由志園にて開催されました。リアル部会の為、会場は万全のコロナ対策をされていました。多くのワイズメンとお会いでき、水田美世先生の「こどもの居場所づくりの意義」講演を聞かせて頂き、由志園の素晴らしい紅葉も見ることができ、感激いたしました。部会を開催されるにあたり瀬戸山陰部福永部長をはじめ関係各位の皆様にご挨拶申し上げます。

11月23日ワイズメンズクラブ国際協会創立100周年を祝う事業として、いち早く六甲部の皆様が神戸市北区のしあわせの村で植樹式を行われました。

11月27日、28日西日本区次期役員研修会が開催されました。次年度はワイズメンズクラブ国際協会創立100周年の年度となり、田上正次期西日本理事の力強い方針が発表されました。主題は「原点を知り将来に生かす」スローガンは「立ち上がれワイズモットーと共に」この主題とスローガンには西日本区会員のV字回復の意味合いが鑑みえます。今年度・次年度の役員の皆様と共に力を合わせ、西日本区を良い方向へと導いていきましょう！2日間の研修お疲れさまでした！個々に得るものがあったと思います。

共に邁進しましょう！

魔法の言葉 園屋 高志

今年のプロ野球は、ヤクルトスワローズが20年ぶりに日本一になった。そのヤクルトの高津監督が選手にいつも言っていた言葉は「大丈夫、絶対大丈夫！」だそうである。ヤクルトファンも「絶対大丈夫！」と書かれた紙やタオルを掲げて応援していたのを、テレビでしばしば見かけた。高津監督や選手はこの言葉で自らを励まし、鼓舞し続け、その甲斐あって有終の美を飾ったのだろう。

翻って自分の場合を考えてみると、悩んだ時、困った時、自分に言い聞かせる言葉がある。特に次の3つである。(1)「なるようにしかならん」(先の事を考えて心配ばかりしていてもしょうがないから、成り行きに任せる)、(2)「そんなときゃそんなとっのこっ」(そうなった時はその時に考えればよい、今から心配してもしょうがない)、(3)「できたひこ」(頑張りすぎないで、適当なところでできただけで良しとする)。

私は楽観的に物事を見られず、すぐに悩んだり考え込んだりする性格である(だから太らない、とよく言われるが)。この2年近くは、コロナ禍も重なって様々な状況に悩んでしまうことがあった。しかし、これでは心身を壊してしまうと危惧し、上述の3つの言葉を口に出すことにしている。

これらはいつも母が口にしてきた言葉であるが、悩んでいるときに最後はそう考えると心が落ち着くものである。近頃は冒頭の「大丈夫！」もそれに加えている。不思議なもので、この言葉はシンプルであるが「魔法の言葉」であることを実感している。

ワイズデー活動報告

11月14日(日)にワイズデーの活動として、鹿児島YMCAとの合同で清掃活動を実施しました。徳田ワイズと松若ワイズがワイズメンズクラブより参加されました。晩秋の気持ちよく晴れた朝7時半から谷山港のヘリポート付近に約90名が集合し、清掃活動は開始されました。広々とした場所には一見、ゴミなどなさそうですが...、コンクリート塗装されていない場所には草が生い茂り、その中にはあるわ、あるわ、出るわ、出るわ、多くのプラスチックゴミ、空き缶などが捨てられておりすごい量になりました。風に飛ばされて海に入ってしまうと、海洋プラスチックゴミになるのです。中にはカータイヤ、長い蛍光灯数本、ステレオのスピーカー、釣り竿などもあり、あきれられるばかり。生活圏ではないので明らかに不法投棄なのです。今回の活動はSDGsで考えますと、17の目標のうちの14番目「海の豊かさを守ろう」に繋がります。不法投棄の実態を見るにつけ、腹立たしさもありましたが、粘り強い活動の継続こそ大事だなと思うのでした。

鹿児島クラブ 中堀 清哲





ハゼノキ

関東地方以西の本州、四国、九州及び沖縄にかけて海沿いの山地に分布するウルシ科の落葉樹。原産地は中国、東南アジア、インドなどだが、室町時代以降（諸説あり）に渡来し、その後に各地で野生化したと考えられている。四季を通じて変化に富むため、関東以西では庭木として使われる。

江戸時代から昭和初期までは、この果実から蠟を採取し、和蠟燭や鬢付け油などに用いた。別名をロウノキという。

11 定例会報告 Planning meeting report

日時：令和3年11月23日 火曜日
場所：Zoom
出席者：17名
司会者：松永

11月例会の記録	クラブ在籍者	10名
	出席者	8名
	メネット	1名
	ゲスト	8名
	ビジター	0名
	メイクアップ	0名
	11月出席率	170%

--- 卓話者の紹介 ---

岩下 淳子
- いわした じゅんこ -

「キモノスタイル綺綸堂(きりんどう)」
曾於郡輝北町(現鹿屋市)生まれ。
県立甲南高校 純心女子短期大学卒
鹿児島・福岡でマンツーマンの着付け教室「綺綸堂」を主宰
映画やテレビ・舞台などの着付け
(映画「ゆずの葉ゆれて」、KTS「ナマイキ Voicd」、池田昭代「語りて候」など)
指宿でアロハシャツ用の生地を使った浴衣・着物製作講座の指導
家庭教育学級や石原荘などで、和食のマナーや風呂敷活用術などのセミナーを開催
「綺綸堂日記」毎日更新中

今月の聖句

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、
ついに幼子のいる場所の上にとまった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

マタイによる福音書 2章 9～10節





MERRY
CHRISTMAS!

もろびとこぞりて

諸人(もろびと)こぞりて 迎えまつれ
久しく待ちにし 主は来ませり
主は来ませり 主は、主は来ませり

悪魔のひとやを 打ち砕きて
捕虜(とりこ)を放つと 主は来ませり
主は来ませり 主は、主は来ませり

この世の闇路を 照らし給う
妙(たえ)なる光の 主は来ませり
主は来ませり 主は、主は来ませり

しほめる心の 花を咲かせ
恵みの露おく 主は来ませり
主は来ませり 主は、主は来ませり

平和の君なる 御子を迎え
救いの主とぞ ほめたたえよ
ほめたたえよ ほめ、ほめたたえよ

きよしこのよる

きよしこのよる 星はひかり、
すくいのみ子は まぶねの中に
ねむりたもう、いとやすく。

きよしこのよる み告げうけし
まきびとたちは み子のみ前に
ぬかずきぬ、かしくみて。

きよしこのよる み子の笑みに、
めぐみの み代(みよ)の
あしたのひかり
かがやけり、ほがらかに。



鹿児島YMCA報告

早いもので、クリスマスの季節になりました。新型コロナウイルスへの対応に迫られながら、粛々と過ごした1年だったのではないのでしょうか。簡単に振り返ってみたいと思います。

1月はクリスマスから続く感染者拡大のあおりを受けて、鹿児島市内でも大きな心配の種となりました。そんな折、鹿児島アリーナを貸し切って、ウィンターチアフェスという自主イベントを開催しました。コロナ禍でまったく発表の舞台がなく、チアダンスを習う子どもたちのために何かしてあげたいと考えて発表の機会を用意、その模様はYouTubeを使ってライブ配信しました。

2月には元YMCA同盟総主事の島田茂さんを講師にお迎えして、SDGs研修会をZoom会議を活用して開催しました。ワイズメンズクラブ、法人賛助会企業の方々が参加し、SDGsが私たちの活動の根幹につながってくるものだと学びました。

3月になると、熊本YMCAの岡総主事（当時）が来鹿。埜総主事が熊本YMCAに帰任することになりました。その後鹿児島YMCAの総主事職を引き続き2021年度いっぱいまで継続することとなりますが、スタッフ一同とても寂しく感じたことをつい昨日のこのように思い出します。

4月は、2年ぶりのチアダンス発表会を開催することができました。感染症対策を徹底しながらの発表会は、4部に分けるというこれまでにない方法で、労力としては大変負担の大きい物でしたが、子どもたちや保護者の方々の笑顔を見ると、本当にできて良かったと感じました。

5月になると、鹿児島市より市民体育大会のイベント出演をいただき、久しぶりの機会に心躍らせましたが、コロナウイルス感染拡大の兆候が見られ、中止となりました。

そして6月は会員総会。2年続けてZoomによる開催となりました。長年鹿児島ワイズメンズクラブで活躍され、鹿児島YMCAの常議員を10年務めてくださった田辺さんが退任、そして鹿児島YMCA初の功労常議員となりました。

7、8月はオリンピックを開催するかどうかですったもんだがあり、オリンピックを契機に感染者数が右肩上がりに伸びていきました。デルタ株の脅威をおぼえつつ、様々なことが中止に追い込まれました。そんな中、ぎりぎりのタイミングでしたが、2年ぶりのチアダンスキャンプを行うことができました。久しぶりのキャンプファイアーに涙が出そうになるぐらい嬉しかったことを覚えています。

9月、10月は西日本地区の総主事会議や、全国総務担当者会議、そして多くの皆様が参加した西日本区役員研修会などZoom会議が相次ぎ、比較的静かな日々であったように思います。世界食料デーの実行委員団体として、世界の食料問題について、啓発活動を行うことができました。

11月は、三水会研修に鹿児島YMCAより4名がZoomにて参加。キリスト教理解などについて学びを深めました。また、3年ぶりに清掃活動を谷山港において実施することができました。

こうしてみると、今年も色々ありました。コロナ禍においてもチャリティー活動や社会貢献活動、そして青少年育成活動を継続してこれたのは、本当にワイズメンズクラブの皆さんをはじめ多くの方々の寄り添いがあったて実現できました。2022年、コロナ禍で経験できたことをプラスにして、もっとYMCA運動を皆さんと共に盛り上げていければ幸いです。

12月18日（土）にはZoomにて第12回鹿児島YMCAインターナショナル・チャリティーラン2021を開催し、前田究さんを講師に迎えて障がい者スポーツの世界について学びます。たくさんの学びを得て、アフターコロナで取り組む私たちの活動につなげていきましょう。良いクリスマスをお迎えください。

鹿児島YMCA 新内 博之